

日本脳炎予防接種を受ける人へ（日本脳炎予防接種説明書）

定期予防接種は、音更町に住民票がある人が対象です。

長期間の里帰りや、疾病などで町の指定医療機関以外で接種する必要がある場合は、事前に保健センターにお問い合わせください。

1 日本脳炎について

日本脳炎ウイルスの感染でおこります。ヒトから直接ではなく、ブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介されます。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。ヒトからヒトへの感染はありません。流行は西日本地域が中心ですが、ウイルスは北海道など一部を除く日本全体に分布しています。飼育されているブタにおける日本脳炎の流行は、毎年6月から10月まで続きますが、この間に、地域によっては約80%以上のブタが感染しています。以前は小児、学童に発生していましたが、予防接種の普及などで減少し、最近では予防接種を受けていない高齢者を中心に患者が発生しています。感染者のうち、100～1,000人に1人が脳炎を発症します。脳炎のほか、髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もあります。脳炎にかかった時の死亡率は約20～40%ですが、神経の後遺症を残す人が多くいます。

2 接種対象年齢

(1) 第1期(初回接種及び追加接種) 生後6か月から生後90か月に至るまでの間にある人

(2) 第2期(追加接種) 9歳以上13歳未満の人

(3) 特例対象者(第1期初回接種、第1期追加接種及び第2期追加接種)

平成17年4月2日から平成19年4月1日までに生まれた人かつ
接種日に20歳未満の人

3 回数及び接種間隔

	年齢	回数	接種間隔
第1期初回	生後6か月から生後90か月に至るまでの間にある人	2回	6日以上の間隔をあけて2回接種
第1期追加	生後6か月から生後90か月に至るまでの間にある人	1回	第1期初回接種後、6か月以上あけて接種
第2期追加	9歳以上13歳未満の人	1回	—
特例対象者	平成17年4月2日から平成19年4月1日までに生まれた人かつ接種日に20歳未満の人	4回	6日以上の間隔をあけて2回接種後、6か月以上あけて1回接種、その後、6日以上の間隔をあけて接種

4 副反応

主な副反応は、注射部位の紅斑、腫れ、疼痛、かゆみなどがあり、注射部位以外の副反応として、せき、鼻みず、発熱、下痢などがあります。

稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(ショック症状、じんましん、呼吸困難など)、急性血小板減少性紫斑病(紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等)、脳炎及びけいれん等が報告されています。

5 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残す等の健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額で支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了するまたは障害が治癒する期間まで支給されます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

※給付申請の必要性が生じた場合には、診察した医師、保健センターへご相談ください。

6 予防接種を受けることができない人

- (1) 明らかに発熱(通常37.5℃以上をいいます)のある人
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- (3) 予防接種に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたりしたことのある人
- (4) 予防接種を受けようとする病気に既にかかったことがある人、又は、現在かかっている人
- (5) その他、医師が不適当と判断した場合

7 予防接種を受けるに際しお医者さんとよく相談しなくてはならない人

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有することが明らかな人
- (2) かぜなどのひきはじめと思われる人
- (3) 前に予防接種を受けた時、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーを思わす異常が見られた人
- (4) 薬の投与を受けて皮膚に発疹がでたり、身体に異常をきたしたことがある人
- (5) 今までにけいれんをおこしたことがある人
けいれんの起こった年齢、その時に熱があったかなかったか、その後起こっているか、必ずかかりつけの先生と事前によく相談しましょう。原因がはっきりしている場合には、一定期間たてば接種できます。
- (6) 過去に中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことがある人
- (7) ワクチンには抗原のほか、緩衝剤、安定剤、抗菌剤、着色剤等が入っています。これらにアレルギーがあるとされたことがある人
- (8) 家族・遊び友達、クラスメートの間で、はしか、風しん、おたふくかぜ、水ぼうそうなどの病気が流行している時で、予防接種をうける本人がその病気にかかっていない人

8 予防接種を受けた後の注意事項

- (1) 接種当日はいつものとおりの生活をして激しい運動は避けましょう。入浴は差し支えありません。
- (2) 接種後2～3週間は副反応がでることがありますので、注意しましょう。
- (3) 副反応について(症状は「4 副反応」をご覧ください。)
 - ア 接種部位が赤く腫れたり、痛んだり、痒くなるがありますが、2～3日で消失します。接種部位はかかないようにしましょう。
 - イ 接種部位のひどい腫れ、高熱、ひきつけ等症状がありましたら、病院を受診して保健センターに連絡してください。

不明なことがありましたら、保健センターにお問い合わせください。

(電話 0155-42-2712)